

# 毛利専門委員提出資料

総合科学技術会議基本政策専門調査会殿

2005年10月26日

毛利 衛 委員

今日の専門委員会に欠席しなければならない事情があり、紙面で参加させていただきます。

私の意見は科学技術を「個」別の事象としてとらえるばかりでなく「全体」と関係づけて扱う重要性です。

1. 国家基幹技術を通してはじめて可能な「ものから人へ」の実現。
2. 国家基幹技術は分野別の縦割りの視点ばかりでなく横断的な視点で。
3. 国家予算全体の中で第3期計画の定量的な投資額の提示。

1. 「ものからひとへ」は今計画の最重要なメッセージである。しかし、重点推進4分野に代表される研究室レベルの科学技術のみでは、国全体にまたがる様な、いざというときに動員する科学者技術者たちの育成はできない。産業界だけでもできない。私の経験から、それは大型研究プロジェクト開発、たとえば宇宙、海洋、原子力など、個々の科学技術要素が複雑に絡み合っはじめてミッションを達成する過程を通してのみ訓練される。諸外国と違い、日本で忘れがちな国の総合的な安全保障における「ものからひとへ」の考え方は、科学者技術者の重要な役割である。

2. 上記の国家基幹技術は分野別戦略における戦略重点科学技術の一つとして位置づけられているが、たとえば、統合地球観測システムは環境（防災）とフロンティアにまたがっているなど、分野別の縦割りの議論だけではできない。もし、分野別の議論を進めるならば、国家基幹技術を横断的視点から見られる体制、たとえば担当する事務局を設けることが必要と考える。

3. 基本計画にはできる限り数値目標を入れて具体的に実現できるようにしようという流れで、委員会で議論してきている。個別的な目標ばかりでなく、全体的な投資額もできるだけ具体的に示すべきであろう。答申には基本政策専門調査会として是非何らかの形で盛り込んで欲しい。